



飛行機に乗って、あこがれの北海道へ。そらぶちは夢のキャンプ場でした。



2014 そらぶち



2019 そらぶち



ナイト
アクアリウム
2013

水族館を一晩貸切にしたことも（江ノ島水族館 2013～15 の三回実施）

会員 Y. K.

冒険学校がなくなってしまうと聞いてショック！もっと続けてほしい気持ちがいっぱいですが、でも何でも終わるときが来るものかもしれないですね。

冒険学校はまさにうちのメインのイベントでした。娘の M.が小学生の頃からなので、かれこれ7～8年前からの参加でしょうか。季節に応じてたくさんの企画に参加をしました。かなり前のことでおぼろげにしか覚えていないことも多いですが、記憶を掘り起こして、あれこれ思い出してみました。

まずは長野県までバスで行った雪遊びです。2回くらい参加したと思います。そのうち一回は直前に娘が体調を崩してしまい、キャンセルしようかと迷ったのですが、せっかくだからと私(父親)と長男 H.の二人で参加することにしました。長男はまだ保育園児で、母親と離れて泊まりで旅行なんて初めて、なんだか不安そうな顔をしていたのを思い出します。それでもゲレンデについたら、そり遊びに雪だるまつくりと楽しそうにしていました。夜には、雪の精に捧げるロウソクの儀式をしたのを覚えています。たしか餅つきもしましたね。

そして、ゆずりはらのコンサートでは、心魂さんのすばらしいパフォーマンスに感激しました。この間大和田小学校に来てくれたストリングラフィ어의演奏もその時初めて聞きました。そのあとはみんなでご飯を食べて、夜は各自が余興を披露するとのことで、初めてみんなの前で大道芸を披露しました(緊張したなー)。

それから毎年春の総会と BBQ、毎回いろんな食べ物が用意され楽しみでした。特に焼き鳥が美味しかったですね、おなか一杯食べました。シャボン玉博士の特大シャボン玉はすごかったです。恒例の長靴投げでは思わず力が入りすぎてすっぽ抜けて、ぜんぜん飛ばなかったりしましたが、新緑や桜も見られて楽しかったです。

ビンゴ大会も楽しみでした、私は山登りが好きなので、カモシカスポーツ提供の山道具をひそかに狙っていました、今でも山に行くときに使っています。

あと印象に残っているのは、お魚まつりです。特大のプールの中にニジマスが泳いでいて、捕まえて炭焼きにするのです。魚が大好きな隼人が大興奮でびしょびしょになりながらニジマスを捕まえて嬉しそうにしていました。確かこの時は下の子が生まれる直前で、私と長男の二人で参加したような記憶があります。父親と長男の二人の時間もなかなかないので、今となってはいい思い出です。

そしてコロナ禍が始まり、イベントが全て中止になってしまいました。そんな中、直接会うことはできないけれど、オンラインで冒険ひろばを行うという嬉しい知らせがきました。画面上で顔を合わせて盛り上がる新しい方式に、始めは少し戸惑いましたが、コロナで友達とも会え



ず暗くなっていた家族の気持ちを慰めてくれ、久しぶりに温かい気持ちになれました。工夫して企画してくれて本当によかったです。画面越しに見るダンスや手遊びなどみんなの特技の発表もよかったです、みんな才能を隠していたのですね(笑)。うちは家族で大道芸ということで、娘と弟たちも(強制?)参加してマジックと皿回しに挑戦しました。ほぼ私の自己満足だったような気がしますが、家族のきずなが(少しは・・・)強まったかな。

バリアフリー運動会もありましたね、コロナ後は体育館を貸してくれる学校がなく、新しく大和田小学校の体育館でやりました。学校を探すのが大変だったのではないかと思いましたが、あきらめないところがさすが冒険学校ですね。毎回八王子まで車で行って、お昼ごはんを近くのレストランで食べるのも新鮮でよかったです。

それから、いつも楽しい編集動画を送ってくれるのも楽しみにしていました。うちはあまりビデオ撮影などしないほうなので、冒険学校の動画が子どもたちの貴重な成長記録になっています。

あと、ずっと行きたかった車椅子の人と高尾山に登ろうにも最近参加できました。娘にとっては初めての山登り、1号路の舗装路とはいえ、結構傾斜がきつく心配でしたが、若いボランティアに車椅子を引いてもらってぐんぐん登り、娘もすごく嬉しそうな表情をしていました、弟たちも頑張って頂上まで歩き、そこで食べたカップラーメンが最高だったようです。

定期的に届く会報も楽しみにしていました、イベントの記録や、なめとこ山通信、海外からの便りなどいつも楽しく読んでいました。

いろいろ思い返すと、冒険学校のイベントは本当に家族の毎年の恒例行事となっていました。いつも新しい企画にチャレンジしてくれて本当にありがとう、おかげで家族や友達との思い出がたくさんできました。

障害のある娘を通じてこんなに楽しくて暖かい人とのつながりを体験でき、娘にも感謝です。

長い間、会を運営して続けてくれた皆さんお疲れ様でした。



会員 N.R.

我が家が地球冒険学校に初めて参加させて頂いたのは、息子が小学4年生、2017年7月のお魚祭りでした。よっしーファミリーに誘って頂き、「初めまして～」と宮下先生にお魚祭りの参加申込のメールを送ったところ、かなえ先生から「Kくんと学校で同じグループで過ごしているのですよ」とお返事を頂き、そんな身近に！と驚いたことを昨日のここのように覚えています。



2017 お魚まつり

最初は、息子が楽しめるかどうかという基準で、イベントの参加を考えました（そのため、ボルダリング企画に参加しなかったことは、今思えば後悔です…）が、参加回数を重ねるうちに、イベント内容は何でもよくて、地球冒険学校の皆さんに会うことが参加目的となっていきました。そして、最初は小さい声で少し照れくさいなと思って歌っていた校歌も、いつからか抵抗なく自然に大きな声で歌えるようになっていました。



2019 高遠雪遊び

高遠の雪遊び。息子を肩に担いで雪坂を登ってはそりで楽しく滑って、また、担いで登って滑って。息子がまだ小さくて軽かったから、そして親の私たちが若かったからできたなあ、と懐かしく思い出します。行きのバスレクも楽しかったですし、峠の釜めし、つきたてのお餅と豚汁もおいしかったなあ。

楽しい発表に心がほっこりしました。

ゆずりはらでのコンサート。昼間はプロの方々の素晴らしい演奏やパフォーマンスに感動し、夜は一転、ダンス、歌、ギター、マジック、仲間たちの自由気ままに何でもありの

高尾山登山。車椅子ではなかなかできない体験を、頼もしいボランティアの方々のお陰で、気持ちよく森林浴しながら、楽しくおしゃべりしながら599mを登り切ることができました。「Kちゃん、高尾山に登ったんだって！すごいね！」と羨ましがられる、自慢の体験となりました。山頂でよっしーに淹れてもらったコーヒーも、下山後のビールやお饅頭もおいしかったなあ。

コロナ禍でのZOOM学習会。高遠の雪遊びで一緒だったマイケル君のNZから始まり、会報誌で毎回興味深く投稿を読ませて頂いている吉村さんの南アフリカ、そして恐竜博士のカナダとナイトミュージアム。現地とリアルタイムで繋がって、その国の文化や暮らし、研究分野についてのお話を聞いたことは、コロナ禍の退屈を、わくわくする時間に変えてくれました。コロナ禍でも活動を止めずに、ZOOMや富士森公園でのイベントを企画して下さったことも大変ありがたく、ZOOM越しにでも皆さんと会えたことが、あの時はとても嬉しかったです。

そして、毎年恒例のBBQやバリアフリー運動会、バスケット観戦、かなえ先生のお料理教室等々。地球冒険学校のイベントは毎回、事務局の皆さん、宮下先生ファミリー、ボランティアの皆さん、助っ人の先生方、本当に沢山の皆さんの支援があり、優しさが溢れていて。イベントに参加して帰ってくると、いつも温かい気持ちに包まれて、明日からも頑張ろうというエネルギーを頂きました。地球冒険学校の、何よりも自然体で、ほのぼのとした優しい雰囲気が大好きでした。